

# 鳥取県 若桜民芸館

鳥取県



**若桜民芸館**  
鳥取県八頭郡若桜町若桜268番地  
☎0858-82-1289

**開館時間** 10時～17時  
(冬季期間:12/1～2月末は16時まで)  
**駐車場** あり(若桜町公民館駐車場利用)  
**休館日** 年末年始  
**入館料** 無料

- 【大阪方面から】**
  - 中国自動車道 山崎I.C→R29 / 約61km(約1時間20分)
  - 中国自動車道 津山I.C→R53→智頭I.C→河原I.C→河原インター線→R29 / 約80km(約1時間40分)
  - 中国自動車道 使用JCT→河原I.C→河原インター線→R29 / 約80km(約1時間30分)
- 【関西方面から】**
  - 大阪駅→郡家駅 / 智頭急行・特急スーパーはくと(約2時間20分)
  - 郡家駅→若桜駅 / 若桜鉄道(約30分)
- 【岡山方面から】**
  - 岡山駅→郡家駅 / 因美線・特急スーパーいなば(約1時間40分)
  - 郡家駅→若桜駅 / 若桜鉄道(約30分)
- 【関西方面から】**
  - 大阪をAばー 山崎I.C→若桜 / 高速バス(約3時間)
- 【岡山方面から】**
  - 岡山→鳥取 / 高速バス(約2時間40分)
  - 鳥取駅→若桜駅 / 若桜鉄道(約50分)





©Kim SongGi (金成基)



## 若桜民芸館

築100年以上の古民家(旧中尾邸・大正8年建築)をリノベーションした館内には郷土玩具やお土産として地元息づく土鈴約2000点が展示されており、個性豊かな作品の数々を楽しむことができます。古民家を持つ昔ながらの懐かしい雰囲気と、中庭も備えた風情ある空間の中で、多彩な民芸品に触れてみてはいかがでしょうか。

## どれい 土鈴とは

土製の鈴。どすず、つちのどすずともいいます。土鈴を打ち鳴らせば、除魔の呪力があると信じられていて、よく祭典に用いられ、また、お守りとしても使用されました。古墳時代には、副葬品、あるいは打ち鳴らして急を知らせる道具にも使用され、原始楽器の一つでもありました。玩具としての土鈴が登場するのは、江戸時代初期に京都伏見の土焼きの一つとしてつくられたのが最初とされています。土鈴を10個ずつ薬でくくって鈴成りに見立て、果樹の枝に吊るして豊稔を祈ったり、また、井戸に吊るして虫除けのまじないにも用いられました。

## 日本固有の文化

## 土鈴の歴史

**古 代**  
600~794年  
(飛鳥・奈良)  
五三八年伝来の仏教により仏具の鈴が作られた。六四七年「駅伝の制」により「駅鈴」が作られた。奈良時代から伝わる堺の「蜂田神社の占鈴」や岐阜の「美江寺(みえじ)の福鈴」は貴重な土鈴である。

**中 世**  
794~1192年  
(平安・藤原)  
万葉集では金属の「駅馬の駅鈴」、「装身具の鋼小鈴(くしろこすず)」、「鷹の尾羽の白塗の鈴」がある。

**近 世**  
1192~1600年  
(鎌倉・室町・安土桃山)  
二二八一年弘安の役で負傷した神埼町尾崎に收容された蒙古兵から尾崎土人形の技法を伝授され「室内天神土鈴」などが作られた。

**近 代**  
1603~1867年  
(江 戸)  
「縁起物土鈴」、「御守り土鈴」など庶民の信仰と密着した数々の土鈴が生まれた。それらは旅のお土産用として人気があった。「英彦山(ひこさん)神宮のガラガラ」、「伏見稲荷の連鈴」、「州崎(すまき)神社の五色鈴」、「金桜(かみざくら)神社の虫切鈴」などが紹介された。

**近 代**  
1868~1989年  
(明治・大正・昭和)  
土鈴収集家の柳政一は大正九年「土の鈴」で人気土鈴を紹介し、大正十年からの「第一次土鈴ブーム」に火をつけた。昭和十年頃から太平洋戦争が始まった昭和十六年まで「第二次土鈴ブーム」が続き、各地に土鈴の愛好家の会が誕生し、土鈴の花が咲いた。敗戦から立ち直り、観光ブームでお土産用の「観光土鈴」が復活し、昭和三十五年頃から「第三次土鈴ブーム」が始まった。